



世界遺産応援プロジェクト第二弾

世界遺産を目指すまちづくりー絹産業遺産群ー



伊勢崎市企画部企画調整課



写真：案内標識の整備(田島弥平旧宅前)、案内標識(拡大)

伊勢崎市では、世界遺産登録を踏まえた市民協働によるまちづくりを推進するため、月1回程度、境島村まちづくり推進会議を開催しています。同会議では、帝京大学経済学部観光経営学科の大下茂教授にも御協力を頂きながら、境島村区長や地元団体の皆様により、周辺環境整備やおもてなし対応に向けた積極的な意見交換が進められています。こうした取り組みの結果、写真のような周辺環境整備やおもてなし対応が実現しています。

本年2月の会議では、伊勢崎市関係課のほか、伊勢崎警察署、伊勢崎行政県税事務所、伊勢崎土木事務所、境島小学校の皆様にも御出席いただき、総勢約40名で田島弥平旧宅周辺の実地調査を行いました。同会議では、世界遺産登録後の来訪者の増加を見込んだ安全対策について意見交換を行うとともに、その実施に向けた関係機関との連携についても確認が行われました。

このように本市では、世界遺産を目指すまちづくりの輪が、一步一步、着実に広がるとともに、市民協働によるまちづくりの成果が、ハード・ソフト両面で現れてきています。

藤岡市教育委員会文化財保護課



写真：管理便所棟

藤岡市では、「富岡製糸場と絹産業遺産群」の構成資産である高山社跡の世界遺産登録推進と合わせて、建造物の保存整備を進めるとともに、まちの活性化を図るため高山社跡及び周辺資産の活用を検討し、平成25年3月に「高山社跡周辺整備基本計画」を策定しました。基本計画としては、高山社跡及び周辺一帯の「文化遺産としての価値の【保全】」を大前提として、藤岡市の多彩な観光資源との「【連携】により観光力のアップ」を図るとともに、「市民参加の【交流】の場づくり」により、市民のもてなしや生きがいとしての場づくりを進めることを基本的な考えとし、事業を進めています。

周辺整備として平成25年度に、高山社跡前に管理便所棟と北側駐車場の建設を進め、現在は高山社跡と北側駐車場をつなぐ遊歩道の整備を進めています。また11月に行われた、高山社跡や藤岡市の自然にふれながら走る「蚕マラソン」では県内外から多くの参加がありました。平成26年6月の世界遺産登録に向け高山社跡への見学者数も増え、観光客へ向けた、高山社関連の土産を購入できる「会遊亭」が昨年6月に市街地にオープンするなど、世界遺産に向けてまちづくりを進めています。

下仁田町企画財政課企画調整係



写真：荒船風穴
1号風穴(冷氣放出)

下仁田町にある指定史跡 荒船風穴は、明治後期から昭和初期まで使用された蚕種貯蔵施設です。電気冷蔵庫が普及していなかった時代、天然の冷風を活用した風穴技術により養蚕の多回数化を可能にし、日本最大規模の貯蔵量を誇り、西上州の山間にありながら全国規模の取引を実現しました。生糸の大量生産を実現した技術革新の重要な役割を果たした施設として、世界遺産候補「富岡製糸場と絹産業遺産群」の構成資産の一つとしてあげられています。

現在でも冷風が継続的に噴き出ており、直接肌で感じる事ができる希少な史跡となっています。神津牧場近くの山間の自然豊かな場所にあるため、夏場に訪れるには最適な癒しスポットであり、ガイド案内により史跡の歴史的重要性を知ることでもあります。位置は長野県境近くの山間地にありますが、神津牧場や荒船の湯などの施設に近いことから、これらの観光拠点を結び、全体として観光地としての機能を高める取り組みを進めています。また、アクセスが容易でないことから、簡単に利用できる交通ツールとして、地元タクシーによる荒船風穴・ジオパークツアーを昨年度から開始し、平成26年度はシャトルバスの運行も計画しています。

支援団体として荒船風穴友の会も設立される予定であり、機運も高まっており、今年度は荒船風穴に関連付けたイベントが各所で実施される予定です。お土産や特産品など関連商品も開発されていますが、中心商業地や産業にいかに結び付けられるかがこれからの課題でもあります。